平成30年度第2回自立支援協議会

平成30年12月11日（火）

資料2

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 部会名 | 平成30年度第１回　就労支援部会 | | |
| 日時 | 平成30年12月５日（水）　14：00～16：00 | | |
| 場所 | グリーンホール１０１会議室 | | |
| 参加者 | 部会関係者、事務局（障がい者福祉課：課長、管理係） | | |
| 会議の公開（傍聴） | 非公開※ | 傍聴者数 |  |
| ※協議にあたり、企業の事業活動状況や内部情報を多く含むため。（本報告内でも該当部分は割愛。）  １　概要  (1)議題　　板橋区での障がい者雇用に係る求人状況、就労支援および定着支援の課題  (2)部会関係者（計４名）　※ハローワーク欠席  企業・雇用関係者、障害者就業・生活支援センター、特別支援学校の各代表者  ２　協議課題および主な協議状況  　※事業所の運営・会社の状況についての具体的な話を交え、下記の点について協議を行った。  (1)障がい者雇用に係る求人の状況等  ハローワーク(池袋管内の状況)：精神障害者の増加（昨年度）d  ハートワーク状況（板橋区上半期）　※就職内定者：前年より約20人増加。  (2)就労支援および就労定着支援に係わる課題について  　　※板橋区での就労定着支援実績（10月から本格実施。請求ベースの速報値で、11月は17件）  　　　＊課題例（移行支援事業所連絡会での意見を踏まえ）  利用者からの支援不要申し出案件、訪問体制の確保、利用者負担  (3)その他  　　・特別支援学校の就職内定状況。  　　・中小企業での雇用（義務ないが、人手不足。求人票が出てこない状況。）  　　・希望は安定だが、当初からの正規雇用は１割。  また産業界全体で終身雇用が崩れてきている状況がある。官公庁雇用は３年の制約がある。  　・雇用切り出しの課題（ずっと同じ業務の切り出しは困難。切り出しにも変化が求められる。）  　　・その他、地元や中小企業で障がい者を雇用するための課題・方策。  (例)都心の特例子会社への希望が強い。業種選択を含め、アンマッチが生じている。  中小企業回りの事例。障がい者雇用を広報媒体により、アピールできないか。  《参考》就労支援部会の構成  平成28年度、就労支援部会の子会として、地域の就労移行支援事業所（民間事業所）のネットワークを立ち上げた。当部会は、現場のネットワークの議論を踏まえつつ、就労支援の方向性を検討するため、公的支援機関や関係団体の連絡会となっている。  子会（就労移行支援ネットワーク会議）は、ハート・ワーク(板橋区障がい者就労支援センター)所長を座長とし、区内で障がい者の就労を支援する全事業所（９事業所）の連絡会であり、30年度は8月30日に実施し、今回の就労支援部会の内容を踏まえ、12月19日に2回目を予定している。  　　事業所の運営や個別案件に係わる事項等を扱うため、会自体は非公開としている。 | | | |